



中原だより

令和2年度 第10号
西東京市立中原小学校
校長 水野伸一郎
令和3年 1月31日

<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-nakahara/>

変わらぬ支えと協働の歩み

副校長 佐々木 琢

新校舎に移転して一ヶ月が経過しました。子どもたちは、徐々に新しい校舎での学校生活に慣れ、適切に感染症予防をしながら過ごしています。

(新校舎での様子は中原小学校ホームページをご覧ください)

新校舎でも変わらぬ支え

先日、6年生の総合的な学習の時間に、キャリア教育の一環として、父親の会を中心に地域の方々をゲストティーチャーとしてお招きし、職業について学ぶ機会がありました。建設、航空関連、ブライダル、流通、ゲームクリエイターの5つの職業の方々からお話を聞きました。それぞれの仕事の内容はもちろん、どうしてその仕事を選んだのか、仕事のやりがいや嬉しかったこと、1つの仕事には多くの人の関わりがあって成り立っていることなど、写真や図を活用し、子どもの目線に立った内容で、とても分かりやすく話してくださいました。

コロナ禍の中で、子どもたちの学習の進め方に制限があることを踏まえ、父親の会の方々が教員と十分に打ち合わせをし、できることを考え、進めることができた取組でした。

また、中原小見守り隊（学校安全連絡会）の皆様も、これまで通り、子どもたちの登下校を暖かく見守ってくださっています。新校舎に移転し、通学路が変わっても、これまでと同様に子どもたちの安心・安全を支えてくださっています。



さらにはPTAの方々も、今、学校のために、子どもたちのために何ができるのかを考え、コロナ禍の3密を避けての学校のための活動を粛々と進めてくださっています。2月の月上旬に、全校児童に配布される予定の中原小学校のマスコットの1つである「ひばりん」の形をした反射板キーホルダーの作成も、その1つです。



これからの協働の歩み

今年度から全面実施されている新学習指導要領の基盤をなすものが「社会に開かれた教育課程」という考え方です。

これは、社会に貢献できる人材を育てるために、学校教育で目指すものを、学校だけでなく家庭や地域と協働的に進めることです。これは、社会に支えられてはじめて成立するものであり、目指すところを保護者や地域と共有することが必須となります。

学校教育目標と育成する資質・能力を見据え、学校像、児童像、授業像を保護者や地域と共有し、子どもたちに社会とのつながりを意識させ、現実社会の問題に向き合い、自分の問題として解決に向かう力を目指していくものとなります。そのための礎となるのが、保護者や地域の方々の支えであると考えています。

2度の校舎移転や開校60周年記念式典、そしてコロナ禍での学年別学習発表会など、これまでも様々な教育活動の中で、必ず保護者や地域の方々の協働的な支えがありました。

子どもたちのために、学校を支えるその変わることのない姿は、確実に子どもたちの記憶に刻まれ、将来の地域の担い手として育っていくことと確信しています。

2月及び3月中旬までの行事予定

日	曜	主な行事
1	月	全校朝会（放送） 避難訓練
2	火	安全指導
3	水	
4	木	朝学習 教育面談日
5	金	5時間授業
6	土	土曜授業 4時間授業
7	日	
8	月	新一年生入学手続き日① 4時間授業（1・2年）
9	火	糸車体験（1年）
10	水	学習フォローアップ（放課後）
11	木	建国記念の日
12	金	新一年生入手続き日②
13	土	
14	日	
15	月	5時間授業
16	火	
17	水	クラブ活動
18	木	パラアスリート（4年）
19	金	自主学习週間始
20	土	土曜授業 4時間授業 がん教育（6年）
21	日	
22	月	
23	火	天皇誕生日
24	水	学習フォローアップ（放課後）
25	木	
26	金	卒業を祝う会（つくし学級） 保護者会（つくし学級）自主学习週間終
27	土	
28	日	
3/1	月	卒業式会場準備（5年）
2	火	安全指導 保護者会（6年）
3	水	6年生を送る会（放送） 委員会活動
4	木	朝学習 避難訓練
5	金	
6	土	土曜授業 3時間授業
7	日	
8	月	
9	火	
10	水	学習フォローアップ（放課後）
11	木	保護者会（1・2年）
12	金	保護者会（3・4・5年）

※感染症の状況により、クラブ、委員会活動は中止とします。

☆保健室より☆

新型コロナウイルス感染症の感染者数増加を受けて、緊急事態宣言が再度出されました。先の見えない状況、行動の不自由さの中で一生懸命生活し、知らず知らず緊張が続いています。無意識に体や気持ちに力が入り、痛みやイライラ、不安も高まっているのではないのでしょうか。特に、子どもは危機に直面したり、環境の変化があったりストレスを抱えると多くの場合、心身にストレスサインが現れます。このストレスサインにより早く気付くために、日頃の健康観察がとても重要です。

～いつもと違う子どもの言動に気を配りましょう～

子どものストレスサインが保護者にとっては「困った行動」に見えることがあります。保護者が対応に困るような行動が続く時には、「ストレスサインかもしれない」と考えてみるのが大切です。

子どもの様子の変化

- 学校に行きたがらない。
- 家族に反抗的になる。
- 頭痛、腹痛等をよく訴える。
- ささいな物音にも驚く。
- 親のそばから離れない。強い甘えが見られる。
- 一人になるのを怖がる。
- チックが出たり、激しくなったりする。
- 喜怒哀楽が激しい、あるいは無表情になる。



対応のポイント

- ・子どもとの肯定的なコミュニケーションを心掛ける。
- ・対応に迷う時は、子どもの行動をよく観察してみる。
- ・困った行動が続く時は、対応の仕方を変えてみる。
- ・保護者が自分自身を責めすぎない。
- ・信頼できる誰かに相談してみる。

～一人で悩まずに相談しましょう～

相談できる機関

学級担任はもちろん、学年主任、教育支援コーディネーター、養護教諭、スクールカウンセラーなど、保護者が相談しやすい先生なら誰でも構いません。

学校以外でも、子ども家庭支援センターや保健所、かかりつけ医に相談してみる方法もあります。

今の状況では誰にでも不調が起こって当たり前です。その不調を少しでも防いだり和らげたりするために、正確な情報を得て、何ができるか考え、落ち着いて生活していくことが大切です。

文科省：「子供の心のケアのために」より